

課題等への対応策

施設名称

施設名称	老人憩の家 なぎさ荘
指定管理者	学校法人 新潟青陵学園
指定期間	平成25年4月1日～平成28年3月31日
所管課	中央区健康福祉課

課題等への対応策(指定管理者)

	課題等	対応策(いつまでに、どのように、対応するか。)
1	管理に対する姿勢が第三者的な印象を受けた。責任感を持って臨んでほしい。	引き続き、事務担当職員と施設管理人の連絡を密にし、事務担当職員が物品管理や清掃の実施状況について把握するとともに、曖昧な部分があった管理体制やルールを明文化します。
2	利用者動向、発掘を進めるためのツールとしてアンケートは重要であるので、回答数を増やし、答えやすいアンケートにして、データの収集に努めるとともに、分析をするべきである。	次回アンケート(平成27年7月頃)では、利用推進につながる設問に絞り込むとともに、利用者の回答しやすい内容とするなど、ニーズの把握に努めます。
3	若い人との交流は施設利用の活性化につながるかと考える。	本学園に在籍する学生・生徒・園児との交流行事(血圧測定・園児と共に学生主催のミュージカル鑑賞等)を引き続き企画・実施してまいります。現状、授業時間との兼ね合いから学生が日常的・継続的に参加する事業を実施することが難しく、取り組みが散発的になる傾向があるが、活動バリエーションの増加や改善、施設運営に学生ボランティアの受け入れなどを検討し、世代間交流の活発化を図っていきます。
4	掲示物が褐色化している。至急点検し張り替えるべきである。	古い掲示物は順次張り替え、対応を行っています。
5	天井が破損している。至急点検・修理するべきである。	第三者評価にかかる現地視察後、天井の破損部分について建物管理業者による点検を実施。点検の結果、安全面で大きな問題は無いとの判断でありましたが、今後、修繕を実施する予定です。
6	給湯所や休憩所押入れに私物・毛布などがある。至急撤去するべきである。	給湯室の毛布は救護用の物品であるため、引き続き使用します。中広間押入れの私物は、ダンスサークル・カラオケサークル参加者のものであるため、団体として使用するもの以外は撤去するよう、各サークルの代表者に依頼しました。
7	本棚は掲示の上、至急撤去するべきである。	本棚に置いてある書籍は利用者や図書館から寄付されたものであり、貸出簿を設置し、貸出・閲覧を行っています。利用されている方もいることから、引き続き設置していきます。
8	広間のダンス使用。もともとダンスフロアでなく、大広間休憩所にとってはひどい騒音であり、本来はダンス利用はあり得ない。せめて室内専用のシューズも利用なしなど対策をとるべきではないか。	ダンスを含め中広間で実施されている活動は、高齢者の健康増進という施設の設置目的に資するものと認識しており、音量と安全への配慮を行いつつ、継続利用を認めてまいります。なお、現在もダンスシューズの利用に関しては、靴底やヒールにクッションを付け利用されています。また、サークル団体からは使用後の清掃にもご協力頂いております。

課題等への対応策(市)

	課題等	対応策(いつまでに、どのように、対応するか。)
1	すべての「老人憩いの家」を、老人の利用のみに限定せずに、さまざまな世代が交流する「茶の間」方式に変更すべき時期が来ているのではないかと。高齢世代に偏った支援は今後市民の理解を得にくい。	老人憩いの家の利用に関しては新潟市老人憩の家条例第2条(条文:憩いの家を利用することができる者の範囲は、新潟市内に住所を有する60歳以上の者及びその団体とする。)で定められており、利用者や利用方法の変更は条例の改正を伴うため全市的な課題として、今後検討していきます。
2	費用に比べて受益者の負担が著しく低い。かかっている費用を提示して、利用料で約3割の負担を導入する。	平成24年7月より入浴利用料の有料化を始め、現在1回あたり100円程度の利用者負担を頂いております。受給者負担のあり方としては、他の施設とのバランスを考えながら、全市的な課題として検討していきます。
3	建物を最大限生かすために、市が実施している検診などを、憩いの家で受けられるなど、もっと新規の利用を促すなどの工夫が欲しい。	現状の施設では駐車場の数が限られており、日常的な検診の実施としては、アクセス面などの課題が多い状況です。一方で、窓口や電話には設置場所や利用方法に関する問い合わせがあり、引き続き周知に努め利用促進につなげていきます。